

調査の流れ

事前調査

- ・ 当該地が法・条例に基づく調査が必要であるか判断し、調査の基本的な位置づけを行います。



調査内容の決定

- ・ 調査に必要となる図面の収集、関係者へのヒアリング、遵守すべき調査仕様（参考とする調査仕様）等から、当該地に適切と思われる調査内容（対象物質・地点など）を決定します。
- ・ 調査対象物質としては、一般的に、東京都条例などで採用されている、ベンゼンや鉛などの有害物質を設定します。
- ・ 上記有害物質のほか、地下タンク周辺における油汚染の有無も、調査内容に含めることがあります。



土壌汚染調査の実施

- ・ 現場での土壌調査を実施します。
- ・ ベンゼンなどの揮発性有機化合物については、土壌ガス調査を実施します。
- ・ 鉛など重金属類は、土壌を採取し（表層ボーリングを実施）土壌溶出量調査及び土壌含有量調査を実施します。
- ・ 油汚染調査には、ボーリング調査を実施します。



評価及び対策

- ・ 万が一、汚染が確認された時には、汚染区域を詳細に特定するための詳細調査を実施することがあります。
- ・ 対策には、関係する行政機関等との協議を行いながら、適切と思われる方法を提案・実施いたします。
- ・ 前述のとおり、事業団では、調査内容の守秘義務にも厳格に対応しております。



調査完了

- ・ 浄化目標値を確認し、調査を完了いたします。

- 有害物質とは -

土壌汚染対策法では、土壌に含まれることに起因して健康被害を生ずるおそれがあるものとして、全 25 物質を指定しています（法律では、「特定有害物質」と呼びます）。特定有害物質には、以下の物質が含まれます。

第一種特定有害物質（11 物質）	第二種特定有害物質（9 物質）	第三種特定有害物質（5 物質）
トリクロロエレン、テトラクロロエレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエレン、シス-1,2-ジクロロエレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、ベンゼン	カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀（アルキル水銀）、セレン、ふっ素、ほう素	有機燐、PCB、シマジン、チウラム、チオベンカルブ